

# 出張報告書

2024年 3月 28日

所 属	職 名	氏 名	
組織・発生学講座	講師	北村 啓	
出張目的	マドリード・コンプルテンセ大学に留学のため		
出張地	スペイン（マドリード）	時 期	2023年 4月 15日 出発 2024年 3月 22日 帰着
<u>報 告 事 項</u>			
<p>マドリード・コンプルテンセ大学、解剖・発生学講座のホセ・フランシスコ・ロドリゲス・バスケス教授のもとで、人体発生学の共同研究を行い、以下の論文を国際誌に発表した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>① Kitamura K., Suzuki R., Ishizuka S., Murakami G., odríguez-Vázquez JF., Yamamoto H., Abe S. Growing stylohyoideus muscle insertion to the hyoid bone with special reference to its topographical relation to the intermediate tendon of digastricus muscle: a histological study using human fetuses. <i>Ann Anat</i>, doi: 10.1016/j.aanat.2024.152246. Epub 2024</li><li>② Kitamura K., Ishizuka S., Ji Hyun Kim., Yamamoto H., Murakami G., Rodríguez-Vázquez JF., Abe S. Development and growth of the temporal fascia: a histological study using human fetuses. <i>Anat Cell Biol</i>, Accepted</li><li>③ Cho KH., Honkura Y., Kim JH., Hayashi S., Kitamura K., Murakami G., Rodríguez-Vázquez JF. Topohistology of the cranial nerves IX–XII at the cranial base and upper parapharyngeal space: A histological study using human fetuses. <i>Anat Rec (Hoboken)</i>, DOI: 10.1002/ar.25355, 2023</li></ol> <p>マドリード・コンプルテンセ大学では、ヒト胎児の大型切片の作製法とこれらの切片の観察法を学んだ。舌根付近の形態は2足歩行であるヒトと、4足歩行である動物で大きく異なる。また、我が大学における発生学は基本的にマウスを使用した実験であるのに対し、マドリード・コンプルテンセ大学ではヒト胎児の貴重な組織切片が大量にコレクションされている。私は、これらのコレクションを全て観察し、発生段階順に器官・組織が変化し、どのように成熟した構造を獲得するのかを研究した。その結果、茎突舌骨筋と顎二腹筋の舌骨への付着獲得機序①、側頭筋膜が2層構造を形成する過程②を明らかにし、上記の論文を作成した。</p> <p>私はマドリード・コンプルテンセ大学で学んだ結果を踏まえ、今後の発生学的研究に活かしていきたいと考えている。つまり、ヒト胎児では困難な、インサイチューハイブリダイゼーション、RT-PCRなどの実験をマウス胎児で行い、上記論文で見出した形態の分子細胞学的な根拠を解明していきたい。また、ホセ・フランシスコ・ロドリゲス・バスケス教授とは研究協力者として関係性を継続させており、新たなヒト胎児における研究も遂行中である。</p>			